

3. 底魚資源変動調査

3- (1). 底魚漁獲統計調査

志村 健

目的

沖合底魚資源の持続的利用と沖合底びき網漁業の経営安定に資するため、山陰沖における有用資源の資源動向を把握する。

方法

鳥取県の沖合底びき網漁船が所属する地区（賀露、網代、田後、境港）の漁獲月報を集計し、漁獲の変動を把握した。

結果

漁獲量、金額、稼働隻数の年推移を図1に示した。2014年の本県沖合底びき網の漁獲量は6,622トンで、金額は42億6千万円であった。稼働隻数は賀露6隻、網代10隻、田後10隻、境港1隻の合計27隻である。

主要魚種別の漁獲量においてハタハタは1,286トンで前年をやや下回ったが、その他のアカガレイ（1,639トン）、ソウハチ（704トン）、マダラ（530トン）は前年を上回った（表1）。松葉ガニは277トンで前年を下回り、若松葉も142トンで前年を下回った。親ガニは557トンで前年並みであった。

2014年の所属地区別魚種別漁獲割合を図2に示す。

○賀露

漁獲量は1,848tで、その内訳はアカガレイ27%、ハタハタ25%、ソウハチ11%及びズワイガニ9%で、この4魚種が漁獲の約7割を占めていた。また、漁獲金額は10.4億円であったが、そのうちズワイガニが40%を占め、以下アカガレイ22%、ハタハタ11%、ソウハチ7%となった。

○網代

漁獲量は2,058tで、アカガレイ44%、ハタハタ21%、ズワイガニ16%で、この3魚種が漁獲の約8割を占めていた。また、総漁獲金額は15.3億円で、そのうち43%はズワイガニで以下、アカガレイ33%、ハタハタ9%となっており、他の3地区に比べ、アカガレイの割合が高かった。

○田後

漁獲量は2,625tでその内訳はズワイガニ17%、ハタハタ15%、ソウハチ15%であった。その他にアカガレイ、マダラ、エビ類を漁獲しており、その他魚種（25%）の占める割合も高く、他の3地区に比べ多様な魚種を漁獲している。また、総漁獲金額は16.0億円で、ズワイガニの割合が52%を占め、他の地区同様、非常に高い割合を占めていた。

○境港

2013年9月から1隻が稼働しており、漁獲量は91トンで、ズワイガニの漁獲が38%と多くを占めている。

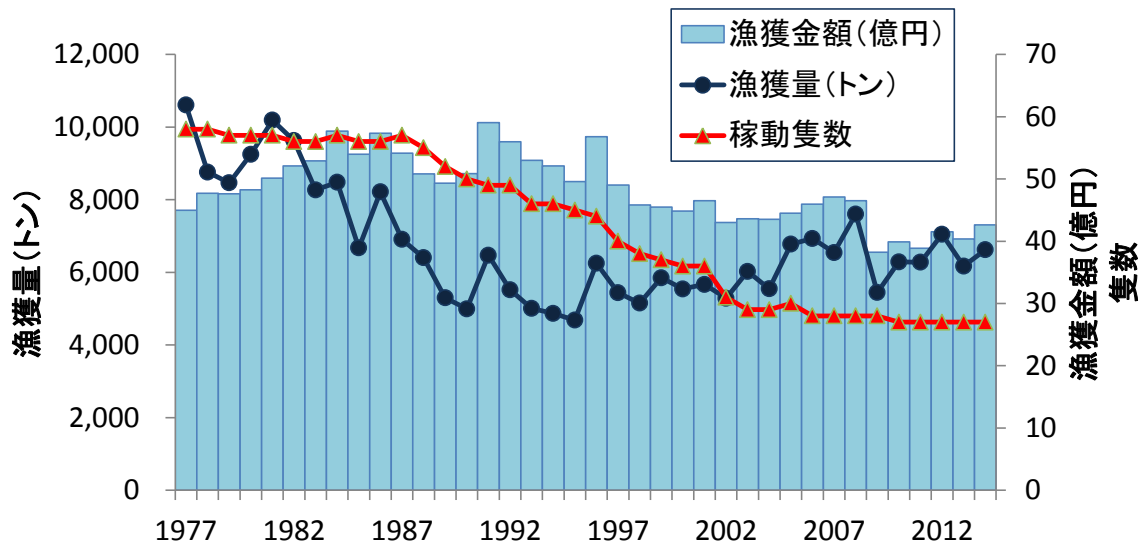


図1 漁獲量、金額、稼働隻数の年推移

表1 沖合底曳網主要魚種の水揚量 (暦年)

* 平年は2009～2013年平均

	ハタハタ	アカガレイ	ソウハチ	マダラ	松葉ガニ	若松葉	親ガニ
2009年	1,208	1,246	457	162	258	175	718
2010年	1,043	1,257	731	336	249	236	745
2011年	859	1,487	840	515	247	175	614
2012年	1,614	1,611	526	552	316	197	642
2013年	1,310	1,287	677	401	328	173	559
2014年	1,286	1,693	704	530	277	142	557
平年	1,207	1,378	646	393	280	191	656
前年比%	98	132	104	132	84	82	100
平年比%	107	123	109	135	99	74	85

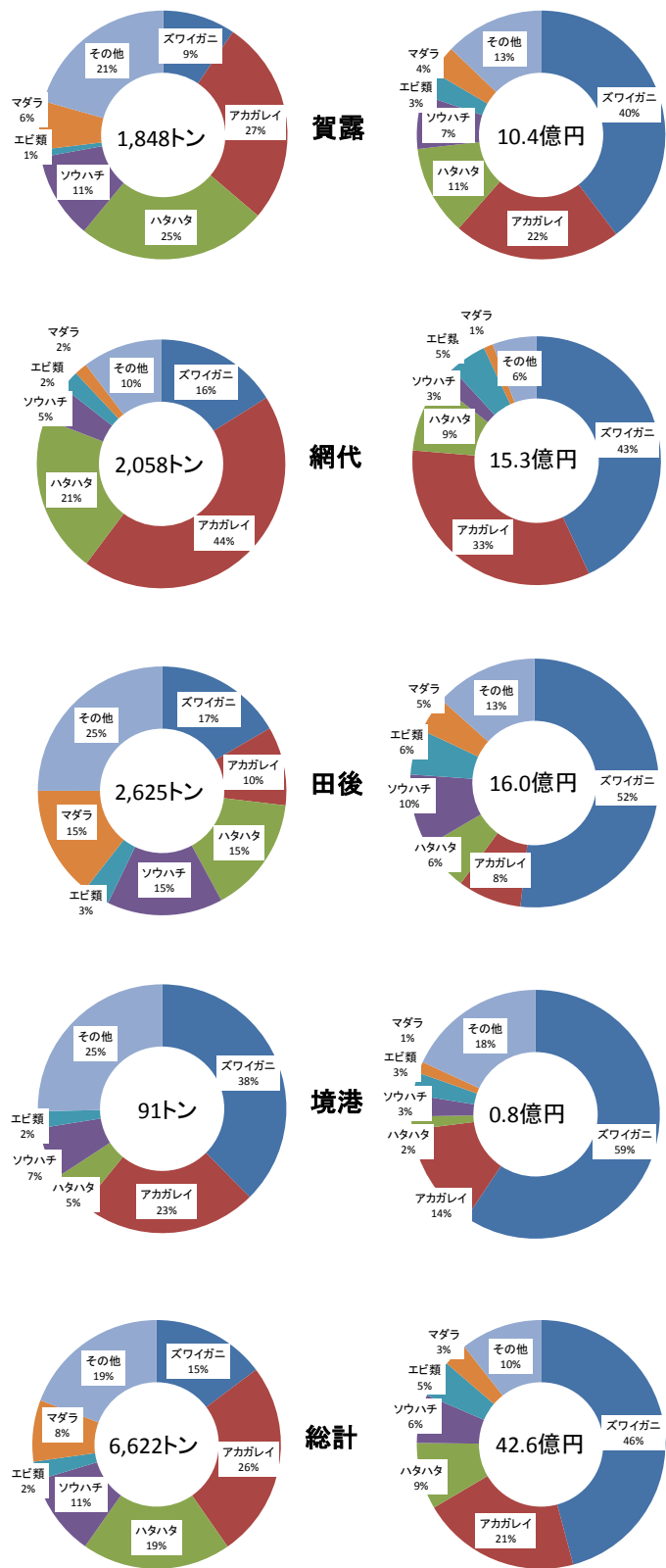


図2 地区別魚種別漁獲量,金額 (2014年)